

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472800374		
法人名	有限会社 三輝		
事業所名	グループホーム加美		
所在地	宮城県加美郡加美町上狼塚字東北原12-238		
自己評価作成日	平成30年11月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成30年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

加美町広原小学校に近い静かな住宅街にあり、開設から15年目をむかえる。キャラバンメイトの養成講座を全職員が受講し活動できるようになっている。地域の方が認知症に関心を持ち、理解を深めていただけるよう講師の活動を継続していきたい。また、近隣の広原小学校の4学年との交流をきっかけに今後も小学校と交流関係を継続していけるように取り組んでいきたい。現在、町からの協力をいただきながら災害協定を締結する方向で話をすすめている。特に上狼塚北区との協力関係を重視していきたいとの思いから区長さんにもお話し承いただいている。レク係を中心に月一回は行事や外出を企画し季節を楽しんだり、年中行事など馴染みの暮らしの継続を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道457号線沿いで広原小学校が近くにある1ユニットのホームである。周りは民家や水田が広がり静かな環境である。毎年、職員に理念を考えるアンケートを行い、決定し、実践に活かしている。町内会に加入し、夏祭り、避難訓練、秋祭りなどに参加し、地域と交流している。職員は地域の人や家族が立ち寄りやすいよう配慮している。運営推進会議では、委員が事業運営について考え、情報交換も行っている。加美町の伝統行事「火防の虎舞」が、ホームに来訪し披露しており、利用者の楽しみになっている。職員が、地域の学校で認知症サポーター養成講座の講師を行うなど、地域との連携体制がある。職員から意見を聞き、職務体制、勤務時間などの改善の努力をしているが、介護人材不足により厳しいこともある。資格取得や研修参加には協力的で、職員のチームケアに重点をおいた支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GH加美 ）「ユニット名」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年1回、全職員でアンケートをふまえ介護理念を検討している。介護理念を見やすい場所に掲示し、朝のミーティング後に全職員で復唱し理念に基づいたケアが提供できるよう心掛けている。	理念は、年1回職員からアンケートを取って決め、「利用者さまに真心と笑顔で接し心がなごむケアを提供します。」とし、ホームの見やすい場所に掲示している。朝のミーティングで復唱し、言葉遣いに気を付け、笑顔で接するよう心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの行事(夏祭り、歌と踊りの会など)に近隣の方を招いたり、地域の行事(避難訓練、秋祭りなど)に出来る限り参加している。散歩しながら挨拶をかわしお花を見せていただくこともある。	町内会に加入し、敬老会、避難訓練などに参加している。地域の初午まつりの時に、ホームで披露される「火伏の虎舞」を、利用者が楽しみしている。小学校で認知症の勉強をした後、ホームに見学に来ている。地域住民から外出の時に声を掛けられる関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員全員がキャラバンメイトの養成講座を修了し、地域包括支援センターの依頼を受け、地域へ認知症講座の講師として地域に出向いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハット・事故報告では特に意見をいただくことが多く、誤薬については人的ミスであるため対策を早急に検討するようにとお話があったり、以前から課題としていた地域連携で災害協定にむけたアドバイスなど受けサービス向上に活かしている。	区長、民生委員、家族代表、地域包括職員、社長、管理者の参加で年6回行っている。事業報告や情報交換をしている。グループホーム発信で地域包括支援センターの所長から助言をもらい、区長と災害協定について話しをした。その後、町にも相談に行き、町からも今後、災害協定により協力関係を築きたいとの話があり進めている。また、薬剤師による薬の勉強会なども行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者受入れや、退去後の対応、町に提出する書類などでわからないことがあれば町や地域包括支援センターに出向き相談したり、ご利用者のリハビリについて助言をいただいている。認知症講座の講師として協力関係を築いている。	町の担当者とは、利用者の入居や退去、生活保護などの相談を行っている。認知症サポーター養成講座の講師を引き受けるなど、協力をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアにむけた勉強会を実施し理解に努めている。日中は玄関の施錠をせず、一人で外出されている際は近隣の方からお声がけ頂けるようになっている。人感センサーやベッド柵使用について必要性を話し合いご本人又はご家族に了承を得て導入している。	身体拘束廃止対策委員会を設置し、職員が研修センターで受講した身体拘束や虐待などの伝達研修を行っている。外出したい時は、職員が同行している。転倒防止のために本人、家族の了承を得て、一部のベッド柵や人感センサーを使っている利用者もいる。玄関は、夜7時から翌朝6時まで施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について勉強会を実施し、外部の研修などにも参加、情報を共有し一人ひとり意識を高めている。乱暴な言動に注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修に参加し、権利擁護などについて学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な説明を行い理解・納得をはかっている。利用料の改定について運営推進会議、文書でも伝えご理解ご協力をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者とは、日頃のコミュニケーションの中で何気なく発した思いや希望(食事、外出など)を出来る限り反映させている。ご家族に関しては、来所時に話を聞く機会を設けているほか、年1回の家族アンケートを実施し意見や要望を引き出している。外部の相談機関については契約時に説明を行っている。身元引受人以外の来客者の対応について要望があり対応している。	家族の訪問時に話を聞いている。遠方の家族へは電話やお便りでホームの状況を伝えられている。年1回、家族アンケートを実施し意見や要望を聞き、できる限り応えるようにしている。第三者委員を委嘱したり、他のグループホームの管理者と情報交換を行い、事業運営の参考にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議や日頃のミーティングで意見や提案を聞く機会を設けている他、年2回の人事考課の面談や個別に話す時間を設けている。出来る範囲で反映するよう努めている。	ケア会議、ミーティング、個人面談などで職員の意見を取り入れ、職員用ロッカーの設置や鍵など、改善した。勤務体制についての要望も出ているが、職員不足でもあり検討中である。職員の資格取得や研修などは、勤務扱いとして受講できるよう支援している。	職員の求めている、施設運営を反映できるよう、取り組みの工夫を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格に応じた資格手当を支給するほか、人事考課結果により処遇改善手当を支給している。人事考課制度をうまく活用しやりがいや、各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、内部研修ほか、勤務年数や本人の力量など把握しながら外部の研修(介護研修センターの基礎研修、実践者研修、リーダー研修など)が受けられるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県認知症グループホーム協議会に加入し、協議会主催の研修会や実践報告会、交換研修などに参加でき、サービスの質の向上に努めている。加美町の介護サービス事業従事職員研修で学んだ加美町体操を日々のケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に管理者が訪問実態調査を実施、状態把握に努めている。また、要望や不安(家が心配、家族が心配など)は職員全員で共有し、安心確保につながる対策をその都度検討している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に管理者が訪問実態調査を実施、本人との関わりかたや、家族環境の変化があってもサポートできる旨を伝え、その都度耳を傾けながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活歴・認知症状・身体状況・家族の状況により、必要としている支援を見極め、相談・対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者同士が健康を気遣ったり、支援が必要なご利用者のお手伝いをしたり寄り添ってくださる。出来る事、やりたい事を見極め生活の中でお手伝い頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の生活の様子を電話や手紙で定期的に報告。面会の際には少しでも時間をとりゆっくり過ごせるようご居室で面会いただいている。本人の意向で外出や外泊したり、お墓参りなども支援していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域への外出(スーパーへ買い物、葉菜山など馴染みの場所)、ご家族とお墓参りや外食などを楽しまれている。また、地域密着型サービスが生かされており、利用者同士が近隣だったなど、馴染みの関係がある。	馴染みの床屋や墓参り、外泊、食事などに家族と一緒に外出できるよう支援している。携帯電話を使用できる、支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で、職員がパイプ役となって会話をつなげたり、一緒に作業を行ったり、良好な関係が築けるよう努めている。利用者同士が助け合う場面もみられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、その後の支援(ケアマネージャへの引き次など)に努めたり、入院後の相談などに応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の情報やご家族の話をもとに、暮らし方の希望、意向(毎日散歩したい、毎日お風呂に入りたいなど)の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活の気づきノートに毎日の利用者の様子を記入し、利用者の思いや希望・要望(花壇の草むしり、折り紙がしたいなど)の把握に努め、叶えられるよう支援している。思いを言えない利用者には、家族から情報を収集したり、紙に書くなど、工夫して聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にケアマネージャーや関わっていた職員や医師、看護師、ご家族から情報提供いただき把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者を5名と4名のグループに分けて、それぞれの担当が日々の変化を見逃さない様にしていく。情報は生活記録、気づきノート、申し送りノートなどで全職員が共有し把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケア会議やモニタリングで定期的にケアを見直し全員で話し合ったものをケアプランに反映させている。また、主治医や家族からも出来る限り意見を頂けるように努めている。	職員と管理者で話し合い、利用者の状態を検討し、3ヶ月に1回モニタリングを行っている。変化がある場合には、都度、アセスメントを行い、介護計画を見直している。見直した介護計画は家族に説明し、同意を得ている。来所が難しい家族へは、電話で説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録や気づきノートを活用し情報を共有しているほか、日々のミーティングでその都度話し合い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の希望に沿った外出や外泊、行事食など柔軟に対応出来る限り取り組んでいる。通院介助や訪問診療、リハビリについてなどその都度要望に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族、兄弟、子供や近隣の住民、地域包括支援センター、踊りの会、病院、行きつけの美容院、スーパーなど地域資源を把握しながら暮らしが楽しめるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前に本人、家族から受診状況や希望を聞き取り、協力医やかかりつけ医について話し合い最適な医療を受けられるよう支援している。	以前からのかかりつけ医受診希望の利用者には、家族が付き添い、通院時に状態が書かれている文章を渡している。協力医がかかりつけ医の利用者には、家族又は職員が同行している。日常の健康管理は職員が行い、薬剤師とも連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師がいないため、かかりつけ医の看護師に気付きを伝え、相談し適切な医療が看護がうけられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、看護師や医師へ情報提供するとともに、治療の方針を家族と一緒に立ち合い相談している。入院中は定期的に看護師へ状況を確認し、その情報をかかりつけ医にも報告しながら関係づくりを行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を作成。現在は話し合っているご家族以外にも本人の変化に伴いその都度、家族・主治医と相談し今後の方針を決定していく。必要時、訪問診療の協力を得ていく。	昨年目標に掲げた、看取り指針のマニュアルを作成し、家族にも説明を行っている。重度化した時には、かかりつけ医に相談し、方針を決めている。重度化し看取り体制が必要と判断された場合は、看取りの指針を再度説明し同意を得て、医師、職員、家族と連携し支援する方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、内部研修として勉強会を開きその知識を共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施し、そのうち1回は消防立会のもと指導を受けている。近隣住民にも協力を依頼。ホームのある地域の避難訓練に参加し協力体制を築いている。町のハザードマップなども活用、町と協力して災害協定の締結にむけ話し合いを行なっている。	年2回避難訓練を行い、夜間想定訓練は消防署立ち会いで実施している。「個人別誘導方法」を作成し、個別の避難誘導が直ぐに分かるようにしている。運営推進委員や近所の人に避難訓練に参加をお願いしている。地域との災害協定の締結に向けて準備している。火災報知器、スプリンクラー、消火器などは年に2回、業者が点検している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声がけを統一する事で混乱を防いだり、失禁時の声がけなども本人が不快にならないような話し方が出来るよう意識している。また、会議やミーティングでも接遇について取り上げ、全職員で話し合っている。	接遇や言葉遣いなどについて、ミーティングで話し合っている。排泄介助時には、利用者が不快な思いにならないように声掛けし、プライバシーに配慮したケアを行っている。利用者の希望を聞いて、名前に「〇〇さん」付けで呼んでいるが、名字の人もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員本位にならないよう意識しながら、起床時間や食事、入浴や服選び、やりたいことなど自己決定出来る場面をつくり働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活から利用者個々のペースを把握し、起床時間や散歩、就寝時間までの過ごし方など本人の話に耳を傾けながら希望にそえるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服選びは体に馴染んだ服だけに偏らないよう注意している。また、2ヶ月に1回美容師に出張ヘアカットを依頼しているほか、馴染みの美容室・床屋に出掛けている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	新聞広告を見ながら食べたいものを聞きだしたり、干し柿作り、行事食や誕生日に希望を取り入れ反映させている。出来る方には野菜や果物の皮剥きや食器洗いなど依頼している。	メニューは食材納入業者が作成している。調理は職員が行い、行事食や食べたいと希望があった場合には、買い物に行き作り、できるだけ希望が叶えられるようにしている。誕生日のケーキは、職員と一緒に作って楽しんでいる。食事は職員も一緒に、利用者の様子を見ながら食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を生活記録に細かく記入。その方の状態に応じ一口大、ミキサー、トロミ食など提供。栄養バランスは定期配送の業者様でカロリー計算されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にブラッシング、スポンジブラッシング、うがい、入れ歯洗浄など口腔ケアを実施。介助が必要な方にも出来るところまでやっていただき、仕上げ磨きを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、利用者個々のパターンを把握しながら声がけ、見守り、誘導の支援を行なっている。尿意のない方でも日中はトイレでの排泄ができるよう出来る限り支援している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、必要に応じ、声掛け、誘導を行っている。便秘予防の為に、常にポットにお茶を入れ準備しており、いつでも水分補給ができるようにしている。医師の処方で、便秘薬を服用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつ以外の時間以外にも水分が摂れるようにしている。かかりつけ医に相談し利用者個々に合わせた排便コントロールを行なっている。また、時間に余裕があるときは軽い運動を促し一緒に行なえるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	年齢や体力面を考慮し3日に1回の入浴を基本とし、その中で「毎日入りたい」などの本人の希望や時間の調整を行ない、拒否がある方には声がけの工夫をし促している。清拭や手浴、足浴も行なっている。	基本は週2・3回、入浴時間の希望を聞き調整を行い、入浴支援をしている。毎日入浴を希望する人には、医師と相談しながら決めていく。湯の状況を見て取り替えている。入浴拒否の人には、無理強いしないで清拭、手浴、足浴などで対応し、声掛けを工夫し入浴できるように努めている。同性介助の配慮もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日光浴や軽い運動の時間を設け安眠に努めている。就寝時間は本人の希望する時間とし21時頃までには休まれるようにしている。夜勤者は2時間おきに巡視し、居室の温度や掛け物の調節をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報ファイルにまとめ利用者全員の服薬状況を共有している。毎食ごと薬を準備し服薬直前のダブルチェックと飲み込みまで確認を行なっている。気になることがあればその都度、医師、薬剤師に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯物干し、食器洗い、カーテン閉めなど、その方の能力に合わせた役割を見つけている。好きなテレビ番組(歌やお笑いなど)録画して見ていただいたり、お団子作り、季節のイベントなど楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レク・行事担当を中心に季節ごとの外出など企画・提案し実行している。その他、おやつ外出や天気をみながら周辺の散歩などを支援している。ご家族にもお彼岸、お盆のお墓参りや学校行事見学など協力いただいている。	季節ごとに、近くの町に、梅、桜、シャクヤク、あじさい、ひまわりの花見に出掛けて楽しんでいる。また、薬菜山へのドライブ、買い物にも出掛けている。家族と外食やお墓参りなどにも行けるよう、支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方がいないので、ホームで預らせていただき必要なものがある時一緒に出掛け買い物したり、ご家族と一緒ににお出掛けした時に使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用を希望される方には、職員が取り次げるようにしている。携帯電話で自ら連絡を取っている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度管理は職員主体にならないよう、その都度確認しながら調節している。共有スペースには季節ごとの歌や、利用者の作品、お出かけの写真など掲示している。不快や混乱につながるものがないか常に気を配っている。	共用空間は明るく温かい。廊下は広く、車いすの行き来もでき、ソファを置いて、ゆったりお話ができるスペースがある。壁には大きな手作りカレンダー、行事の時の写真、季節の飾りなどが飾られている。加湿器を設置し、温・湿度管理は職員が行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースではみんなで歌番組、相撲、競馬などを見たり、体操を行う。座る位置は気の合う利用者同士が近くになるよう配慮している。居室やソファで気の合う利用者同士が過ごせるようになっている他、独りになりたい時、思い思いに過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全室畳のお部屋になっており、使い慣れたものや、本人が大切にしていたものを持ち込めるようになっている。壁には外出の時の写真や家族と撮った写真、自分の作品など飾っている。	畳の部屋には、エアコン、ロッカー、小さな洗面台が設置され、馴染みの筆筒、テレビ、椅子、家族の写真、位牌などが置かれている。整理整頓は、主に職員と利用者が一緒に行っているが、衣替えの時期には家族が行うこともある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアに名前と似顔絵や写真で工夫した名札を掲示、トイレもわかりやすいよう表示している。導線上に危険なものがないか常に気を配ったり、声がけしている。		